

事例研究報告

小学部低学年児童における 教員の指示を受け入れて 玩具の交換に応じるための指導

児童・生徒の実態

- ・ 小学部 1 年児童，知的障がい，自閉症スペクトラム
- ・ 発達年齢 0 歳10ヶ月
- ・ コミュニケーション
受容：物を介した簡単な指示（水筒を持っている状態でかごを差し出し「入れて」等）は理解できる。
表出：発声やジェスチャーでの拒否やうなずきが見られる。指差しで選択できることもある。
- ・ したいことを止められた時やしたくないこと等に対して強い拒否を示し，眼鏡を投げることもある。

保護者の願い

- 友だちと遊べるようになってほしい。
- しゃべれるようになってほしい。
- かんしゃくの頻度が減ってほしい。

教員の願い

- 自己統制力を身につけ、教員の指示を受け入れることで学びの幅を広げてほしい。
- 理解できる言葉が増えることで、自分の思いを相手に伝える方法を学んでほしい。

アドバイザーからの助言

- ・「交換」の指示で好きな物同士の交換をする。
- ・活動→ご褒美の2段階の活動で見通しをもたせる。
- ・動作模倣する力を身につける。
- ・「ちょうだい」や「お願い」の要求を出せるようにする。
- ・PECSを使用し、要求を伝えられるようにする。



- 教員の指示を受け入れることができる
 - 見通しをもつことができる
- の2点を目的とし、「交換の指示で好きな物同士の交換をする課題」に取り組むこととした。

指導目標

「交換」の指示を受け入れて、持っている玩具を交換することができる。

指導の手続き

- ①玩具を手渡し、数秒遊ぶ様子を見守る。
- ②「交換」と言い、違う玩具を提示しながら持っている玩具を手渡すよう手を出す。はじめは玩具を手渡すよう身体的支援を行う。
- ③玩具を手渡すことができると、違う玩具を手渡して言語称賛する。
- ④この手続きを数回繰り返す。

強化子として使用する玩具



車のおもちゃ

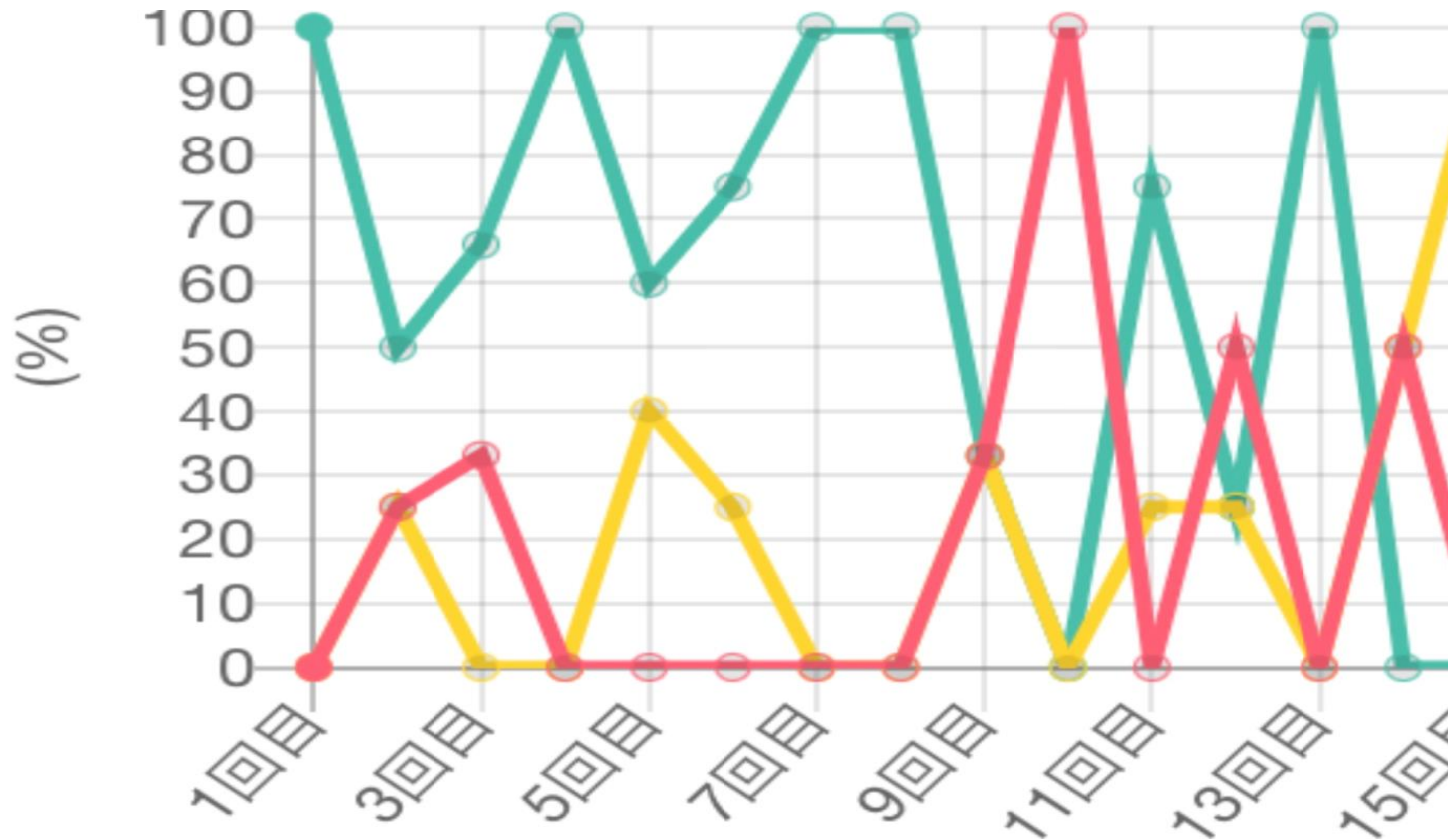


電車のおもちゃ



図鑑

記録



- : 交換できなかった
- P : 持っている玩具を手渡すことができるよう、身体的支援で優しく玩具を取った
- + : 交換することができた

考察

- 玩具を手渡すという手続きは理解できている様子だが、遊びたい玩具（特に凶鑑）のときは、手渡すことを渋ることが多い。身体的支援が必要であったり、机の中に玩具を隠す、机から落とす、眼鏡を投げる等の不適切な拒否をしめしたりすることがある。
- 「交換」の指示のあと、手渡す素振りが見られないときでも、身体的支援をすると手渡すことができることが多い。

アドバイザーからの助言

・新規性と区切りの良さがポイント

- ・ ・ ・ 遊ぶことをやめづらい図鑑の使用を中止し，新鮮なおもちゃを定期的に用意する。
児童の様子を見て区切りの良いところで「交換」の指示を出す。

・プラスの強化子（チョコ）を使用する

- ・ ・ ・ 交換したらいいことがあるという経験をつくる。
はじめはチョコを見せて，交換するとチョコを食べられることを予告し，慣れてくると一瞬見せるだけとし，さらに回数を減らして最終的にはチョコをなくしていく。

・指示を一貫して分かりやすく出す

- ・ ・ ・ 「交換するよ，3，2，1交換」の指示に一貫する。

強化子として使用する玩具



車のおもちゃ



電車のおもちゃ

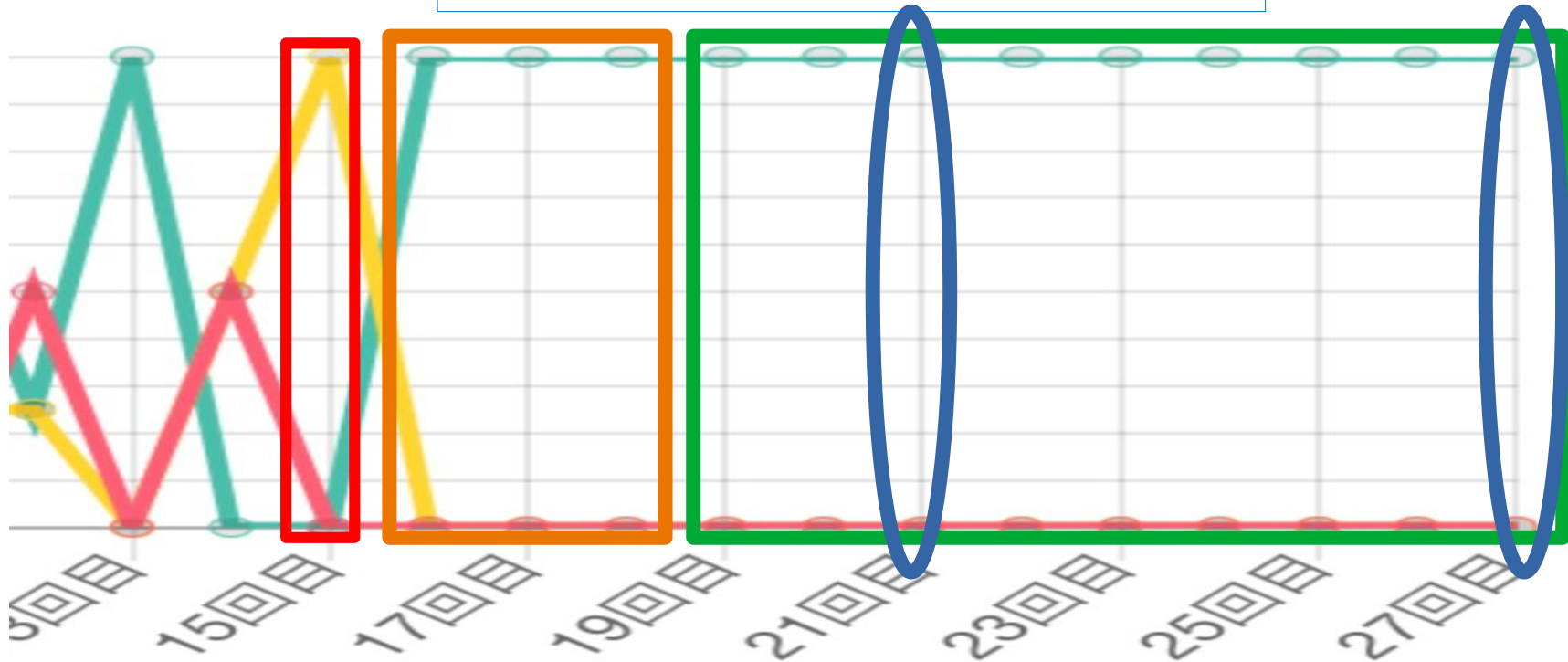


積みき



恐竜カルタ

指導の成果



チョコを使用したの指導開始
1～3回目はチョコを目の前に提示
4回目は一瞬だけ見せた

チョコあり
Pなし

チョコなし

- : 交換できなかった
- P : チョコを見せて交換を促す
- : 交換することができた

般化として、教員を
変えての指導

指導の成果

- チョコを使用後，拒否することなく交換することができるようになり，指導2日目からはプロンプトとしてチョコを見せなくても交換することができた。
- チョコを徐々に減らし，4日目以降はチョコなしでも交換することができた。
- 般化として教員を変えた(21回目，29回目)が，交換することができた。
- 遊びの終わりにトランジッションカードを受け取ったとき，眼鏡を投げず，玩具を手渡すことができるようになった。

ここが成功のポイント

- チョコの使用 + エラーレスでの指導
→ 交換することに対してプラスのイメージがついた。
- 「交換するよ」と具体物（視覚的予告）と言葉
でのわかりやすい予告
→ 見通しをもつことができた。